

『原爆文学研究』投稿規定

一、原爆文学研究会の機関誌として会員からの意欲的な投稿を歓迎します。なお、会員以外の原稿掲載については研究会事務局で判断します。

二、投稿に際しては、住所・電話番号を明記の上お送り下さい。原稿は返却いたしませんので、お手元に控えをお残し下さい。

三、パソコン等を使用の場合はプリントアウト原稿にデータファイルを添付の上お送り下さい。

四、原稿は、新字のあるものなるべく新字を用い、注の形式等は既刊のものに準拠してください。

五、投稿者は各自の原稿一頁（機関誌の書式）につき一〇〇〇円を発行経費として負担することをご了承下さい。

六、次号（15号）の締切は、二〇一六年五月三十一日です。

編集後記 第14号をお届けします。今号には三

本の自由投稿論文に加えて「戦後70年」連続ワークシヨップのⅢ・Ⅷを紙面化したものの特集として掲載しております。昨年八月に名古屋で始めたこの連続ワークシヨップも、その後、福岡、長崎、広島と場所を移しながら今年の八月に一つの区切りをつけることができました。

思い返せば一〇年前、本誌第4号の編集後記に私は次のように記しました。「この機関誌も会の性質上、「戦後六〇年を意識した特集を」という声が上がってもよさそうなものですが、全く上がりませんでした。おそらく、「六〇年」という言葉によつて何かを語ることに、あまり積極的な意味を感じられなかったからでしょう」。しかし、今回は戦後七〇年と銘打った企画をやるとういう声がどこからともなく上がりました。この差は何によるのでしょうか。

この一〇年の間に起きた大きな出来事といえば、福島第一原子力発電所事故が真っ先に浮かびます。もちろんその影響は見過ごせないものですが、どうもそれだけが原因とも思われません。このような本誌の「揺らぎ」が何を意味するのか、まだよく分かりませんが、そもそも「戦後何年」と区切ること自体の問題も含めて考えてゆきたいと思っています。

今号では会員外からイナン・オネル氏と成田龍一氏からそれぞれご寄稿いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

今号に対するご意見、ご感想などお寄せいただければさいわいです。

（中野和典）

原爆文学研究

14

二〇一五年二月一二日発行

編集 原爆文学研究会

八四〇〇六〇

福岡市城南区七隈八一一九一

福岡大学人文学部

中野和典研究室気付

発行 (有)花書院

八〇〇〇三

福岡市中央区白金二一九一二

TEL 九三五六〇六七

FAX 九三五四四二一

定価 一一〇〇円(本体一一二円)

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。